

国語科における論理的に表現する力の育成 —意見文における論の構成の意識を高める「書く」活動を通して—

長期研究員 佐川典康

I 研究の趣旨

平成19年度全国学力・学習状況調査（国語）にかかわる福島県の結果概要から知識・技能を活用する力が弱いとされた。特に、記述形式の問題の「文章を深く読んで分析的に理解し、その上で論理的に記述する設問」の正答率では低い傾向が見られた。また、平成18年度国立教育政策研究所特定の課題に関する調査（国語）において、質問紙調査からは、書くことへの苦手意識が分かり、長文記述に関する調査結果からは、文章を書く上で「構成」に課題があることが明らかになった。

そこで、本研究では以下の仮説を設定し、自分の論を展開する上で必要な情報を収集、整理、活用して、目的に応じて自分の言葉で論理的に表現することができる能力や態度を育てることをねらいとし、本主題に迫ることとした。

II 研究の概要

1 研究仮説

意見文において、論の構成を意識して書くことができるように、以下の三つの手立てを講じれば、自分の論を展開する上で必要な情報を収集、整理、活用して、目的に応じて自分の言葉で適切に表現できる能力や態度が育ち、論理的に表現する力を育成することができるであろう。

【手立て1】 論の構成の意識を高めるための単元の構想

【手立て2】 自分の考えを広げ深めながら内容や表現を吟味するための交流の場と交流の視点の設定

【手立て3】 論の構成の意識を高めるためのスモールステップで書く活動の設定

2 研究の内容と実際

研究協力校 小学校第5学年 26名

単元名「文章の仕組みを考えながら」 10時間

「いろいろな環境問題を調べよう」12時間

(1) 論の構成の意識を高めるための単元の構想

単元の特徴をとらえ、単元全体で論の構成の意識化を図れるようにした。そこで単元構想では、論理の展開が明確で分かりやすい文章構成である説明的文章教材での学習を通して、「読むこと」で身に付けた力を「書くこと」の表現に生かせるようにしたり、グループでの学習で身に付けた力を自分の表現に生かせるようにしたりした。また、前単元で学んだことを生かせるように単元相互のつながりや他領域との関連を図った。そして、単元のまとめに、論の構成を意識して書く活動に結び付けた。

(2) 自分の考えを広げ深めながら内容や表現を吟味するための交流の場と交流の視点の設定

① 「論の構成の意識化」を図り、書く活動に結び付けるための話し合い活動

初めに、学習内容、学習の仕方を提示して、書く活動のために話し合い活動をするという目的意識をはっきりと持たせた。そして、話し合い活動によって、友達の意見を聞いたり、アドバイスをもらったりして、自分の考えに対する根拠を明確にするための交流を行った。

② 自己・相互評価による内容と表現の吟味

交流では、発表の後に友達からアドバイスをもらい、自分の文章をよりよいものにするため加筆・修正をして書き換えさせた。その際、自己・相互評価のため児童の作品を見る視点の焦点化を図り、図1のような五つのアドバイスポイントを提示した。

ア	はじめとおわりの主張（考え）が分かりやすいか。
イ	理由の具体例が分かりやすいか。
ウ	具体例は、事実（本当）であるか。
エ	つなぎ言葉がふさわしいか。
オ	「はじめ・中・おわり」が分かる文章の構成になっているか。

図1 アドバイスポイント

また、これは指導者の支援・評価の重点ポイントとしても活用した。発表する側と聞く側に同じ視点を示すことにより、相互の活動が主体的に進められ

◎ 長期研究員の研究

- 1 小学校国語科
国語科における論理的に表現する力の育成
- 意見文における論の構成の意識を高める「書く」活動を通して- 82
- 2 小学校社会科
地域学習の効果的な指導のために
- 単元構想図をもとにした授業展開の工夫- 84
- 3 小学校算数科
「数と計算」領域における数学的な考え方の育成
- 計算の意味・手続きを説明し合う活動を通して- 86
- 4 小学校算数科
算数科における「活用する力」を高める学習指導 88
- 5 中学校社会科
歴史的分野における「教えて考えさせる指導」の工夫
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用を目指して- 90
- 6 中学校数学科
中学校数学科における「割合」の指導の工夫
- 割合の意味と有用性の理解を目指して- 92
- 7 中学校理科
科学的思考力の向上を目指した指導の工夫
- 観測結果と気象情報をもとにした総合的な考察の展開- 94
- 8 高等学校情報モラル教育
ホームルーム活動で行う情報モラル教育
- 携帯電話に関する短時間活用教材- 96
- 9 高等学校教育相談
高等学校におけるピア・サポートの土台づくりを目指した研究
- 「傾聴」の視点からのアプローチ- 98

効果的な相互評価の場となった。

③ 「論の構成の意識化」を図り、書く活動に結び付けるためのグループでの学習

グループで調べた環境問題についての資料を使って、ワークショップ形式で発表する側と聞く側に分かれ意見交流をした。発表資料の内容には、環境問題の「原因」、「問題点」、「対策」の三つの項目を必ず入れ、グループの中で分担して作らせた。なお、これらの項目は、この後の個人で書く意見文の内容と同じものになるようにし、論の構成のモデルとしても活用することをねらった。

(3) 論の構成の意識を高めるためのスモールステップで書く活動の設定

論の構成を意識して書く活動のイメージは、図2のようになる。

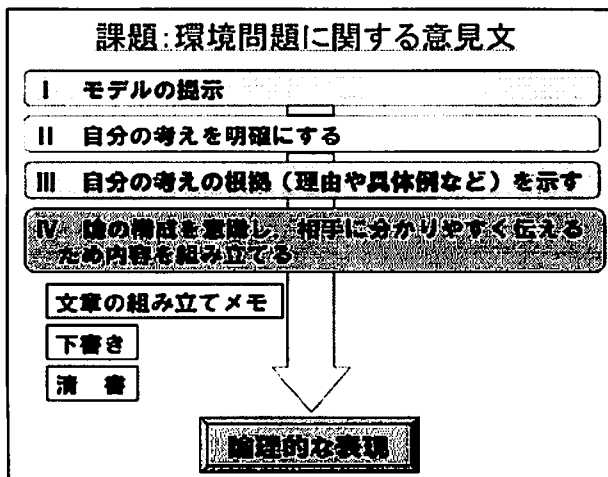


図2 論の構成を意識して書く活動のイメージ図

初めに、児童に意見文のモデルを提示し、作品の概観をつかませた。その上で、自分の考えを明確にする段階、自分の考えの根拠(理由や具体例)を示す段階、相手に分かりやすく伝えるため内容を組み立てる段階を位置付け、スモールステップで書く活動を設定した。特に、内容を組み立てる段階では、ワークシートの活用を図り、さらに細かなステップで内容や表現を吟味して意見文を書かせた。

このようなステップで書かせた意見文を分析すると、以下のような点で論理的な表現の条件を満たした文章になった。

- ① 原稿用紙1枚(400字程度)、四段落の条件を満たして書かれている。
- ② 一貫した主張がある。

③ 具体的な事例を取り上げ、自分の考えに根拠付けをしている。

④ 段落のつながりを考えて、つなぎ言葉を適切に使っている。

⑤ 自分の主張を「始め」と「終わり」に述べる双括型の文章で構成している。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- (1) 論の構成に意識を向けさせたことにより、意見文において自分の考えと根拠を効果的に組み立て、相手に明確に伝える論理的な表現が見られるようになってきた。
- (2) 論の構成の意識を高めるために重点化を図った単元構想によって、自分の考えが明確になるよう文章の組み立てを考えることができた。また、相手の論の構成の意図にも気付くことができた。
- (3) 内容や表現を吟味する視点を持たせた交流によって、友達の文章の内容、論の展開のよさに気付き、自分の表現に生かすことができた。また、作品を自己評価したり、児童同士で相互評価したりする力の高まりが見られた。
- (4) スモールステップで書く活動によって、論の構成を意識化させるとともに、相手に対し自分の考えや意見を明確に伝えることができるようになってきた。また、書くことが苦手な児童にとっては、書く内容と手順が明確になり、段落のつながりを考えた文章が書けるようになってきた。

2 課題

- (1) 交流によって学習を深めるためには、多くの資料から情報を取り出したり、精選したりする力が必要である。また、自分たちが書いた文章の内容や表現を児童自身や児童相互で吟味する力をより高める必要がある。
- (2) 論理的に表現する力は、本単元だけの学習で育つものではない。児童の実態に応じて、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」など他の領域と関連させた言語活動の中で継続的に指導する必要がある。